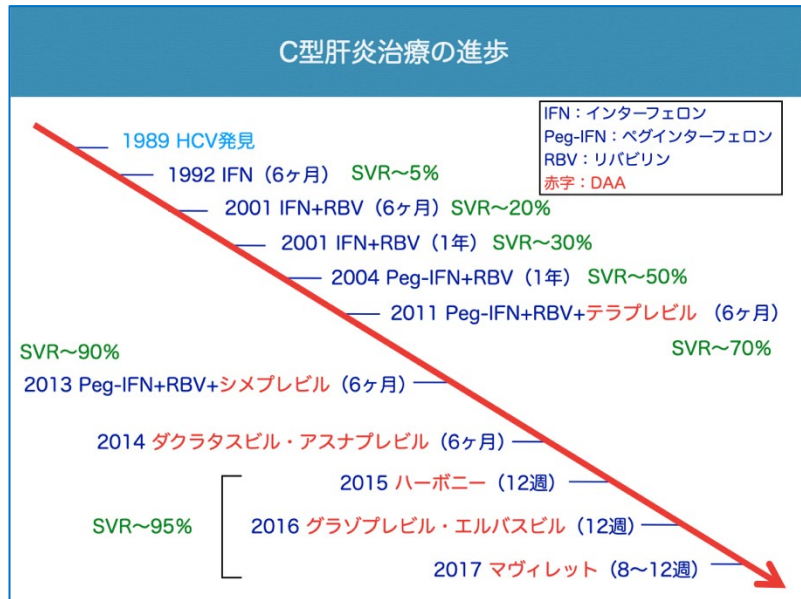


さんも多くおられました。それが今は薬を毎日服用するだけでほとんどの人が治るようになりました。現在の薬はC型肝炎ウイルスの増殖を特異的に抑制する薬剤で、DAA (Direct Acting Antivirals) と呼ばれています。DAA にはプロテアーゼ阻害薬、NS5 阻害薬、ポリメラーゼ阻害薬とい



う3種類の薬剤があり、これらを組み合わせて服用します。服用期間は8週間から12週間で、副作用も軽く、ほとんどの患者さんは何ともないとおっしゃいます。DAA 治療の効果判定ですが、治療終了12週間後も血液中にウイルスが確認されない状態をSVRといい、SVR が得られると、再度ウイルスが出現することはまずありません。そして、SVR となった患者さんでは、将来肝硬変や肝臓がんになるリスクが低下することがわかっています。DAA 治療でほとんどの方がSVR を達成できることがわかっているので、C型肝炎の方は是非、DAA 治療を受けて下さい。また、費用のことをご心配されている方もおられるかもしれませんが、肝炎治療医療費助成金制度という制度があり、これを使えば、低額でDAA 治療を受けることができます。採血の機会などがなく、ご自身が肝炎にかかっているか、ご存じない方がおられます。現在、国をあげて肝炎検診を推奨しています。詳しくは皆様の住んでいる自治体に問い合わせして下さい。

《著者紹介》

加川 建弘 (かがわ たてひろ)



東海大学医学部消化器内科教授
肝疾患医療センター長
1961年生 奈良県出身
1986年 慶應義塾大学医学部卒
1999年~2001年アメリカ タフツ大学留学
日本内科学会総合内科専門医 指導医、日本消化器病学会評議員
専門医指導医、日本肝臓学会評議員 専門医 指導医、
日本消化器内視鏡学会専門医 指導医、
神奈川肝炎対策協議会委員、神奈川県肝疾患審査会委員

